



認知症について理解を深める 孫世代のための認知症講座

6月5日に平泉小学校で、孫世代のための認知症講座が開催されました。小学生が認知症について理解を深めることにより、認知症に対する誤解や偏見をなくし、孫世代の視点から祖父母や近所の高齢者への思いやりやいたわりの心を育むことを目的としています。

受講した菅原太陽さんは「認知症になると物を覚えるのが難しいので、認知症の人に会ったら温かい目で見守ってあげたいです」と話していました。



ほ場に大きな絵を描く ライス・アート in ひらいずみ田植え体験

色の異なる稲で田んぼに絵や文字を描く「ライス・アート in ひらいずみ」の田植え体験(アグリ平泉主催)が5月30日、長島地区の大区画ほ場で開催されました。

7回目を迎えた今回は、例年に比べ1種類多い4種類の有色稲を使って、源義経と静御前に挑戦。参加した町民ら約300人は、真夏のような日差しが照りつける中、素足などで田んぼに入り、稲の植え替え作業に汗を流していました。

ほ場に描かれた雄大な絵は間もなく見ごろを迎えます。



地域の歴史を学び、奉仕の心を育む 平泉ユネスコ協会文化財愛護少年団結団式

平泉ユネスコ協会文化財愛護少年団の結団式が6月13日、毛越寺で行われました。結団式では団員8人と同協会スタッフらが参加。団長の捧明日美さんが「1年間みんなで頑張ろう」と決意表明をしました。同少年団では、自分の住む町にある多くの文化遺産を学び、ボランティア活動を通して、奉仕の心を育むことを活動の目的としています。

この日はその後写経体験と清掃活動を行い、写経体験では集中して1文字ずつ丁寧に筆を運んでいました。



夢を持ち続けることの大切さ 平泉小、長島小で「夢の教室」

日本サッカー協会主催のプロジェクト「夢の教室」が6月1日長島小学校で、2日には平泉小学校で開催されました。児童は、元Jリーガーの佐藤悠介さんから、夢を持ち続けることの大切さを学びました。

授業前半の「ゲームの時間」では仲間と協力することの大切さを学習。教室に移動してからの「トークの時間」において、佐藤さんは「夢を達成するためには感謝の気持ちを持ち続けることが大切だ」と児童に教えていました。

感謝の気持ちを込めて 黄金荘利用者が奉仕活動

黄金荘(得田和明施設長)の地域清掃活動が6月15日、同施設のある7区地内で実施されました。

この活動は、地域との交流や地域に役立つ活動しようとして毎年開催されています。

この日は、施設利用者6人とスタッフ2人で作業を開始しました。約2kmの沿道に落ちているごみを拾い、日ごろお世話になっている地域の人たちへ感謝の気持ちを込めながら清掃活動をしていました。



被災した子どもたちへ「折り鶴」募金 平泉中に小さな親切実行章

平泉中学校は、被災した子どもたちの学費を支援する募金活動「折り鶴プロジェクト」の活動が高く評価され、「小さな親切」運動県本部から小さな親切実行章を受章しました。

この活動は震災後の平成23年9月から生徒会が中心となって取り組み始め、町内のほか、修学旅行先の東京都・上野公園でも募金の呼び掛けを行いました。

生徒会長の五十嵐健人さんは「表彰されたことを契機に、より被災地復興に携わっていきたい」と話していました。



「君に来てほしい。」 パンフレット「美女旅 × いわて」が完成

県南広域振興局が発行する地元一般女性をモデルにした観光パンフレット「美女旅 × いわて 一関・奥州・平泉～世界遺産の旅～編」が完成し、6月17日に町役場で発表会が行われました。地元に住み、地元を愛する女性が、地元を紹介する冊子で、3市町の観光施設などで配布されています。

町内企業に通勤しており、達谷窟毘沙門堂で撮影に臨んだモデルの仲口愛海さんは「掲載されている場所はどれも素敵な場所。たくさんの人に広めたい」と話していました。



思いやりのある優しい心を育む 平泉中で人権の花運動

6月4日、平泉中学校で人権の花運動が開催されました。この運動は、命を守る気持ちと協力することの楽しさを学ぶとともに、花のお世話をすることで優しい心を育むことを目的とし、町内での開催は本年度で3回目となります。

この日は人権擁護委員4人が学校を訪問し、人権についての講話後、美術部員9人と花苗合計135本を植えました。

生徒たちは、人権擁護委員との触れ合いを通してすっかり意気投合し、心が通い合う楽しい時間を過ごしました。